

<b>Title</b>	現代中国の結婚事情
<b>Author</b>	王 世禎
<b>Citation</b>	都市文化研究. 21 卷, p.131-135.
<b>Issue Date</b>	2019-03
<b>ISSN</b>	1348-3293
<b>Type</b>	Article
<b>Textversion</b>	Publisher
<b>Publisher</b>	大阪市立大学大学院文学研究科 : 都市文化研究センター
<b>Description</b>	海外レポート
<b>DOI</b>	10.24544/ocu.20190418-001

Placed on: Osaka City University

# 海外レポート

## 現代中国の結婚事情

王 世禎

筆者は2017年の10月にL君と結婚した後、2018年の3月に中国で結婚式を挙行した。現代中国の結婚については、伝統的な風俗が多く残される一方、時代の推移によって様々な変化が生じてきている。この文章では自己の体験に基づきながら、結婚の法律手続きと風俗の二つの方面から現代中国の結婚事情を述べていく。

この文章で述べる法律上の結婚手続きとは、一般的な状況（結婚する男女の国籍が中国であり、軍人のような特殊身分ではないことを指す<sup>1)</sup>）について述べる。次に現代中国における結婚風俗について述べていくが、地域や各家庭によって差異が存在しており、ここで述べるものは筆者自身あるいは筆者の故郷（河南省駐馬店市駅城区水屯鎮朱洼村）の状況であることを予め断っておく。

### 一、現代中国の法律上の婚姻手続き

現代中国では、婚姻は政府の民政局へ婚姻届を出し、結婚証明書を受け取ることによって実現される。日本のように役所へ婚姻届を出し、籍を入れることで婚姻関係が結ばれることではない。ここでは中国における婚姻の必要条件と書類及び婚姻と戸籍の関係について述べていく。

#### 1、婚姻の必要条件と必要書類

婚姻届を出す前に婚姻する男女は以下の4つの条件を満たす必要がある<sup>2)</sup>。(1) 男女双方の婚姻する意志。(2) 男女双方の年齢が法律に定められる婚姻年齢に達していること（男性は22歳、女性は20歳）。(3) 男女双方に配偶者がいないこと（未婚者、離婚者、配偶者を失った者）。(4) 男女双方が直系血族ではなく、三代以内の傍系親族ではないこと。以上の条件を満たすと、婚姻届を提出することができる<sup>3)</sup>。そして、以下いくつかの書類を準備する必要がある。(1) 常住戸籍簿<sup>4)</sup>と身分証明書、及び3枚の男女両方一緒に撮った証明写真（3.5cm×5.3cm）を用意しなければならない（民政局でも証明写真を撮ることができる）。男女双方は必要書類を持って一方の常住戸籍所在地の市民政局（あるいは県民政局）の婚姻登記機関と一緒に出向き、婚姻届を出す。(2) 男

女双方は必ず自ら民政局婚姻登記機関へ行き婚姻届を出し、各自「婚姻届を申請する声明書」を記入する。(3) 男女双方は必ず婚姻登記員の前で自ら「婚姻届を申請する声明書」にサインあるいは拇印を押す。(4) 婚姻登記機関はこれらの書類と声明書に対して審査を行い、婚姻登記の条件に合えば、登記を許可する。婚姻証明書を受け取るためには9元及びその他の費用（例えば、民政局での証明写真を撮った場合の費用）が必要となる。再婚者の場合は、この手続き以外に、離婚証あるいは裁判所が下した判決書を持って来る必要がある<sup>5)</sup>。以上が法律上の結婚手続きである。

#### 2、中国の戸籍制度と結婚

中国の戸籍簿は居住する人員の姓名、性別、本籍地、生年月日、学歴、職業、宗教信仰、民族、家族成員などの情報を記録している帳簿である。居住人口や個人身分などの基本的な情報を反映する基本的な民政文書であり、その戸籍簿は主に二つの形に分けられている。一つは『常住人口登記簿』であり、戸籍登記機関に保存される。もう一つは『居民戸籍簿』であり、戸籍登記機関で戸籍登記章の印章を押し、個人が保管する。一般的には、戸籍の登記はその出身地で行うことが原則であるが、結婚、離婚、養子縁組、戸籍の分割や統合、失踪などの原因により、戸籍を移すことが生じてくる<sup>6)</sup>。戸籍の移動は一般的には、いくつかのケースがある。1、合法的移住。移住においては、移住を申請し、それを移住先の組織が承認を行う以外に、移住人員の戸籍証明、戸籍成員の公的な証明書、身分証明書、戸籍簿、不動産書類などが必要となる。この他、家屋を建てる場合は、土地使用証明書、土地・規画部門が認めた建築関係の許可書、商品住宅を購入する場合は、購入時の領収書、所属する組織が賃貸住宅を提供する場合は、組織の賃貸証明書などが必要となる。2、新たな所在地に安定的な職業あるいは十分な生活資金を有する場合。就職、転任に伴う通知書、それに伴う登記書類、身分証及び戸籍簿の抄本が必要となる。具体的には軍隊に伴う移動、軍隊からの転業、大学や高校を出て就職する場合、実業家が起業する場合などである。3、新しい所在地の人材導入の政策により招き入れられる場合。移住申請、受け入れ組織の証明、学歴や職歴の証明、組織人事・労働部門の証明、移住人員の戸籍証明、戸籍成員の公的な証明書、身分証明書、戸籍抄本などが必要となる。4、親族に身を寄せる場合。新生児を戸籍に入れる場合、出生証明書、新生児の両親の身分証並びに戸籍簿、両親の婚姻証明書、出生並びに生育許可証が必要となる（計画出産の規程に違反する場合、「社会扶養費」を支払わなければならない）。その他、夫婦、両親や子供、近親が身を寄せる場合があり、それぞれの申請書と身分証、戸籍簿、受入側の証明書、さら

に夫婦の場合は結婚証明書、子供の場合は未婚証明書、近親の場合は扶養を受ける側の病气、怪我などの証明書、扶養関係が確立している公的証明書などが必要となる<sup>7)</sup>。

中国では、婚姻証明書を受け取る場合は戸籍簿が必要となるが、法律上の婚姻関係は婚姻証明書を取ることで実現される。婚姻証明書はその婚姻関係を証明できる法律文書であり、結婚することより戸籍の移動が実現される。『婚姻法』の第九条によれば、結婚する男女双方は自分の意志で自由にいつ、どこでも相手の戸籍に入ることを選択することができる<sup>8)</sup>。婚姻関係の結ぶは戸籍の移動を実現できるが、相手の戸籍に入れることは、婚姻関係が成立する必要条件ではない<sup>9)</sup>。

以上、戸籍について煩瑣な説明をしたのには理由がある。中国の就業、教育、医療、社会福祉などは戸籍に基づいて行われ、現在、農村戸籍と都市戸籍を有するもの間には大きな格差が存在している<sup>10)</sup>。また、農民が都市部へ出稼ぎに出る「農民工」、計画出産に違反したり、未婚の女性が出産し、出産証明が得られず<sup>11)</sup>、戸籍に載せられない子供「黒孩子」の問題、「高考」(大学統一入試)を契機に都市戸籍への変更を求める「高考移民」など戸籍の問題が中国社会においては大きな意味を有しており、婚姻も戸籍の制度と深く関わっている。

## 二、現代中国における婚姻風俗

### 1、故郷の婚姻風俗

次に、筆者の故郷における現代の婚姻風俗について述べることにする。一般的には、男女双方が結婚の意思を両親に伝え、両親の承認の後、結婚を進める段取りとなる<sup>12)</sup>(両親の反対がありながら結婚を進めていくもの、両親の反対によって恋愛関係に終止符を打つものもいる)。筆者の故郷では、男女双方は結婚の意向を決めた後、以下のように進め行く。1、縁談を持ちかける<sup>13)</sup>。男方は父親と家族の年輩者が同行して女方の家に来て縁談を持ちかける。男方は「四色礼」(「四色礼」は縁談を申し込む時に男方から女方に送る贈り物。一般的にはたばこ、酒、豚肉、羊であるが<sup>14)</sup>、地域と家庭の違いによって異なる)及び女方への「見面礼」(初めて会うときなどの贈り物。当地の「見面礼」は一般的にはお金である。金額は千元から万元まで様々)を用意する必要がある。女方及びその両親はこの縁談を認める場合は、これらの贈り物を受け取り、認めない場合は受け取らない。婚約を結んだ後、伝統的な節日(春節、端午節、中秋節など)の時に、男方はプレゼントを持って女方の家や親戚回りをする必要があり、この後の一年から三年までの間で、婚礼準備の段取りに入る。2、結婚式の日を決める。男方は家族の年輩者(一般的には父親および叔父などの男

性年輩者)と一緒に贈り物の品(たばこ、酒、肉、各種の贈り物)を携え、女方の家に来て結婚の日と女方に贈る「彩礼」<sup>15)</sup>(現代の彩礼は一般的にお金である。その金額は一般的に5万から20万円の間にある<sup>16)</sup>。お金以外は、男方が用意する必要な結納の品は、花嫁に与える新しい服、金のアクセサリ、結婚指輪などを含める)の品目を相談する。当地の習俗では結婚の良い日取り<sup>17)</sup>を決めることを意味し、「定好」或いは「下聘」と称する。3、婚姻届を出し、婚姻証明書を取って結婚式の準備をする<sup>18)</sup>。(結婚記念写真を撮る、ウェディングプランナーや結婚式場と賓客のリストを決まるなど)4、結婚式を行う<sup>19)</sup>。中国の結婚式のほとんどは伝統的な習俗と西洋的な方式を結合したものである(但し、カトリックなどの宗教を信仰する家族と特殊な風俗を有する少数民族を除く。その具体的な式次第は表1参照)。5、結婚式終了後の三日目に里帰りをする。

表1 婚礼の式次第(郴州XX婚礼定制の標準的な式次第)

XX 高端婚礼定制	电话：186XXX5062
微博：郴州XX婚礼定制	
1、化粧	7:00~9:00 新婦の化粧ができたあと、新郎に伝えて出発する。
2、婚車の飾り <sup>23)</sup>	7:48~8:28 婚車を花で飾る。 8:48~9:28 婚車行列が家より出発して新婦を迎える。
3、新婦を奪う(花嫁を迎える人は新郎を助け、新婦側の家族や友人が設ける試練を乗り越え、花嫁を送る人達と競争して新婦を迎えに新郎の家へ行く。)	9:28~9:30 新婦が泊まるホテルに到着して花束や金一封を準備して置く。 9:30~9:48 新婦の友達や家族は色々なゲームを設け、新郎の試練を行う。新郎は新婦に告白してプロポーズする。 9:48~9:58 新郎は新婦の隠した靴を探し出し、新婦及びその家族に新婦を幸せすることを述べ、承諾を得る。 9:58~10:08 新郎は新婦の両親に茶を勧め、呼び方を父親と母親に変える <sup>24)</sup> 。 10:08~10:18 新郎は新婦を抱いて婚車に乗り、新郎の家へ行く。
4、新婦を迎える	10:08~10:38 新郎の家に到着する。 10:38~10:46 新郎は新婦を家に中へ抱いて入る。 10:48~10:58 新婦は新郎の両親にお茶を進め、呼び方を父親と母親に変える。終わった後、披露宴を行うホテルへ出発する。
5、ホテルの準備(披露宴の準備)	
6、ホテルのロビーで賓客を迎える	11:10~12:10 新郎と新婦はホテルに到着した後、賓客を迎えて挨拶をする。
7、結婚儀式	12:28~13:00 結婚儀式を行う。終わると、食事を始める。
8、賓客に酒を敬する	13:00 ~14:00 新婦と新郎は着替えて賓客にお酒を敬する。
9、午後の休憩	
10、晩御飯	

## 2. 自己の結婚の実情

以上は故郷の結婚についての基本的な流れである。故郷の農村では上述の手順によって行うことが普通であるが、都市部では家庭や個人の状況によって、手順を省略することが多い。L君と恋愛をするようになってから2年ほどたった頃、私たちは自分の両親に結婚の意向を伝えた。私とL君の故郷（湖南省郴州市）は遠く離れており、さらに、L君の家は都市部にあり、私の家は農村にあるので、結婚の風俗には差異がある。最初は、私の母は上述の結婚の手順を進めたいとかがえていたが、L君とその両親は1から2まで段階のことについて全然知らなかった。彼の地元の結婚風俗では、男女双方は結婚する前に、双方の両親が会わなく、また会ったとしても一度会食をともにする程度である。そこで、双方の両親は相手側の状況を了解した後、一度会うことを決めた。

2017年の9月、L君とその両親はお土産やお金を携えてわが家に来て来た。我が家に3日間に泊まり、結婚のことについて相談を進めていった。初めての日に、双方の両親は私とL君2人の縁談と結婚の日取りについて相談を行い、結婚式を行う日程を決めた。その際に両地の結婚風俗の差異について意見を交換した。次の日、私の両親と叔父が劉君と彼の両親を連れ、地元の名勝旧跡を案内し、地元の文化や飲食文化を体験させた。L君と彼の両親が帰った後、私の両親を彼らの家に招待し、両親はL君の家に行き彼らの熱意な歓待を受けることとなった。

その後、2017年10月にL君と婚姻届を出して婚姻証明書を受領し、2018年3月に結婚式を挙行した。結婚式は、郴州市の地元のホテルとウエディングプランナーを選んだ。結婚式を行う日の朝、新郎は自己の友人と同輩の兄妹と一緒に車に乗り、新婦を迎えに行く。これは迎親と言う。迎親の時、新郎は新婦のために購入した衣服や金銀のアクセサリなどのものを持って行く必要がある。新郎が新婦の家に到着する時には、爆竹をならし、祝いの飴や金一封を配るなどの儀式を行う。新婦は自己の家から離れる時、嫁入り道具を入れた赤色の箱（生活用品、金銀アクセサリ、お金など）を携えて嫁ぐ。その際には、新婦の家族あるいは親戚や友達が新郎に従って新婦を新郎の家に送ることが行われ、これを送親と言う。新郎と新婦の家は遠距離がある場合、新婦は結婚式の前に、新郎の地元のホテルに宿泊して新郎の迎えを待つことが普通に行われる。昔、新婦の両親は花嫁を送ることに参加できなかったが、時代の推移により、その状況は変わってきた。私は結婚式の前の日に、両親と叔父にL君の地元のホテルに送られた。L君はホテルから私を家に迎えた。新郎の家に到着した後、新婦は新郎の両親にお茶を進め、彼の両親に対する呼び方を「爸媽」（父親と母親）に変える。両親は新婦に「紅包」（金一封、

金額は数百元から数千元まで）を与え、「改口費」と称されている。これが終わると、全員ホテルに移動して婚礼の儀式に参加する。新婦と新郎はホテルのロビーで賓客を迎え<sup>20)</sup>、賓客が揃えた後、会食を執り行う。食事が終わった後、賓客を見送る。結婚式終了後の三日目に里帰りをする。上述の通り、結婚式が進められ、その三日後に私とL君と一緒に私の地元に戻り、披露宴を行った。里帰りの披露宴は簡単で特段の儀式がなく、ただ親族や友達を誘って一緒に食事をし、L君と一緒に衆人の祝福を受けただけである。以上で、結婚に関する一連の事柄は全て終了した。

この結婚の過程の中において、両家の間で風俗の相違があることが見えてきた。一例を紹介すると、私の故郷の風俗では、新婦は家を離れるから新郎の家に入るまでの間で、足は土地を踏まえることができなく、兄弟あるいは従兄弟に背負われて車に上ることがある。そして、迎親の時、新婦は緑色の靴を履き、新郎の家に到着する時にそれを脱ぎ、赤色の靴に換えて新郎の家に入る風俗がある。L君及び彼の家族はこの風俗を知らなかったが、私の両親の意思は尊重された。私は緑色の靴を履いてL君に抱かれて車に上り、彼の家に到着した後赤い靴に換えて抱かれて彼の家に入った。L君の地元では、私の両親が知らない風俗が存在している。L君の地元では、新婦が新郎の家に到着する時、車から降りて部屋に入る際に、新婦に赤色の傘を差す必要がある。この風俗は私の両親に賛成されて実行された。

## 三、結びに代えて

伝統的な婚姻風俗は現在でも数多く残されている<sup>21)</sup>。時代の推移によって、多く伝統的な風俗の中には現代社会の実情と合わないということで消えていったものも多い。ただし、多く現代の生活中的習慣や儀礼は新しい形で存在しているが、伝統的な風俗や習慣の中からその源流を探知することができる。伝統的な婚姻風俗は西洋式の結婚式<sup>22)</sup>と結合して新しい現代中国婚姻風俗を形成している。今回紹介した婚姻の実例は、あくまでも筆者自身の個人的体験に基づくものであり、文化風俗を紹介し得ているわけではない。ただ、婚姻という一つの事柄が、個人的な体験にとどまらず、現代中国社会の制度や風俗習慣を反映するものであることも確かである。

### 注

1. 1980年12月29日に公布された『軍隊貫徹實施「中華人民共和國婚姻法」若干問題的規定』によって、二年の兵役期間にある徴集兵は結婚できない。これ以外の現役軍人は結婚することができる。ただし、外国人および香港、マカオに居住している人と結婚することを禁止される。結婚する前に上級機関に結婚の申込書を

出し、上級機関より政治審査を行う。同意されれば、所属する団以上の政治機関より関連する証明書などの資料を発行する。これらの資料を持って戸籍の所在地の婚姻登記機関に出向き結婚の法律手続きを行う。

2. 彭黎の論文「対婚姻登記制度的反思」(鄭州大学碩士論文 2006年)では、婚姻が成立する方式によって礼儀婚、宗教婚、法律婚の三つの種類を分けている。その中で礼儀婚は中国古代の婚礼形式であり、戦国時代から漢代の初期まで形成した婚礼の段取りである六礼を指す。六礼とは、『儀礼』、『礼記』などの儒家經典の中では婚姻をする時に行われる納采、問名、納吉、納徴、請期、親迎など六つの段取りである。伝統の婚姻風俗は時代によって簡略化や複雑化をしたことがあり、六礼に示される基本的な規範を脱したことはなかったと述べている。李亜娟の論文「建国以來的婚姻法律與婚姻家庭變遷—從 1950 年婚姻法到 2001 年婚姻法修正案」(西北工業大学碩士論文 2003 年)では、1950 年から 2001 年まで中国婚姻法が三回(『1950 年婚姻法』、『1980 年婚姻法』、『2001 年婚姻法修正案』)に変更されたことより、中国婚姻家庭にどのような影響を与えたことについて検討している。1950 年の婚姻法は婚姻の自由、男女平等、一夫一妻制、女性と子供の権利を守ることなどの内容を規定し、主に婚姻の自由と女性の財産権の二つの方面に深い影響を与えた。1980 年の婚姻法は 1950 年の婚姻法を継承しながら調整をし、その夫婦財産制、計画出産制、離婚条件についての規定は社会上に大きな影響を生じることとなった。2001 年の婚姻法修正案はさらに夫婦の間の権利と義務を明確し、家庭暴力に関する内容を増加した。この三回の修正を経て、現代の中国婚姻法は主に公民の自主権を尊重しつつも、ある程度の政府関与を加える形式となっている。この法律の発展と修正の過程で、現代文明の婚姻観念を人々に植えつけることとなり、多くの民間の婚姻観念や風俗が消えていったと述べる。
3. 『中国婚姻法』第二章「結婚」参照。
4. 『中華人民共和国戸口登記条例』第六条によれば、公民は常住する地域で常住人口に登記しなければならず、一人の公民は一つの地域において常住人口として登記できる。
5. 『婚姻登記条例』の第二章「結婚登記」参照。
6. 『中華人民共和国戸口登記条例』第十九条によれば、公民は結婚、離婚、收養、認領、分戸、并戸、失踪、尋回或いは其他の事由により戸籍の変動が生じた際に、戸主もしくは本人が戸籍登記機関に変更を申し出て登記できるとある。
7. 『中華人民共和国戸口登記条例』第十条、第十一条、第十二条、第十三条参照。公民が移住する場合、本人或いは戸主が戸籍登記機関に出向き移住の手続きを行い、移住証明書を受け取り、前の戸籍が抹消される。公民が農村から都市に移住する場合、都市労働部門の就職証明、学校の入学証明、あるいは都市戸籍登記機関の移住証明が必要となり、常住地戸籍登記機関に申請を行い、移住の手続きを行う。公民が辺防地区に移住する場合、必ず常住地の県、市、市直轄区の公安の許可を経なければならない。第 11 条では、軍役につく公民は入隊前に、常住地戸籍登記機関に本人あるいは戸主が移住の申請を行い、戸籍を抹消するが、移住証明は発行しない、とある。第 12 条では、逮捕された犯人は、逮捕機関が家屬に通知すると共に、犯人の常住地戸籍登記機関に通知し、戸籍を抹消する、とある。第 13 条には、公民が移住する場合、転入から起算し、都市では三日以内、農村では 10 日以内に、本人あるいは戸主が移住証明書を戸籍登記機関に移住の手続きを行い、移住証明書は破棄する。移住証明書がない公民は、以下の書類により戸籍登記機関にて手続きを行うこともできる。(1) 復員、転業、退伍の軍人は県、市の兵役機関あるいは団以上の軍事機関が発給する証明書。(2) 外国からやって来た華僑あるいは留学生は中華人民共和国のパスポートあるいは入境証明書。(3) 人民法院、人民検察院あるいは公安機関より釈放された人は、釈放

機関が発給する証明書。

8. 馬福雲の論文「当代中国戸籍制度変遷研究」(中国社会科学院研究生院博士論文 2000 年)では中国戸籍制度の歴史を概述した上、現代の戸籍制度の形成と変革、戸籍制度と権利と義務の関連性、戸籍制度の影響により家庭、社会などの方面に生じた変化などについて詳しく論述を行っている。文章の中で、当代戸籍制度における戸籍は社会資源の配分と深く関わっていることを指摘している。都市戸籍は就業、教育、社会福祉、医療、年金などの社会資源の配分において農村戸籍より有利に働くため、婚姻対象を選ぶ時、相手の戸籍を考えることは重要となる。戸籍制度の影響を受け、都市の通婚圏は大体都市であり、農村の通婚圏は農村であり、都市戸籍の人と農村戸籍の人と結婚することは少ないことを明らかにしている。
9. 『中国婚姻法』第九条参照。
10. 馬福雲「当代中国戸籍制度変遷研究」(中国社会科学院研究生院博士論文 2000 年)では、結婚する時、都市と農村の戸籍、それに基づく社会資源には格差が存在していることを指摘している。資源が集中する北京、上海などの大都市の戸籍である人は多くの人にとって理想的な結婚対象である。『中国週刊』(2014 年 2 月期)の「時代改变婚恋観：公務員和京籍戸口成搶手貨」の文章では、北京戸籍である人と結婚し、将来、自分あるいは自分の子供は北京戸籍になるといった期待を懐いて北京戸籍の人と結婚することを求める人々の様子を紹介している。
11. 社会扶養費を支払われれば、「黒孩子」は戸籍に載せられる。
12. 羅信耀の『北京風俗大全—城壁と胡同の市民生活誌』(平凡社 1988 年)という本は主に明清から民国期にかけての北京風俗を描写したものである。この本の中で、息子や娘の縁談は子供たちの考えることではなく、むしろ親の務めだからであるという記述がある。李亜娟の論文「建国以來的婚姻法律與婚姻家庭變遷—從 1950 年婚姻法到 2001 年婚姻法修正案」(西北工業大学碩士論文 2003 年)では時代の変遷によって、婚姻の自由を尊重することを述べたが、私自身の経験であれば最初から、私の両親は娘が遠い外省に嫁ぐことについて受け入れにくかった。彼らは私が地元の人と結婚することを希望しており、私と L 君および親族たちは努力して彼らを説得した。両親の同意は私と L 君にとって非常に重要である。また、これ以外、私と L 君が二人とも学生であるので、経済能力がなく、結婚の費用は全て両親に負担してもらった。これも両親の意見を考えなければならない一つの理由であった。
13. 自由恋愛である場合は、男方は直接に女方の家に訪問して縁談を申し込まれれば構わない。しかし、見合い結婚であれば、仲人が必要となる。
14. ここでいう四色礼の内容は母の話によって記述している。『洛陽日報』(2011 年 5 月 31 日)の「司儀那些“江湖事兒”」という記事では、四色礼の内容について、昔は“対半葱”、“紅筷子”、“柏枝”と“离娘肉”などのものであり、現在はお酒、たばこ、春雨、リングなどのものになっていると述べている。
15. 羅信耀『北京風俗大全—城壁と胡同の市民生活誌』(平凡社 1988 年)では、結納の品は主に、花嫁を飾る四季の衣裳一式、金銀の装身具一式、純白の鷺鳥、大量のお酒と龍鳳餅などのものである。(p. 440)
16. 『東方頭条』新聞頻道(2018 年 9 月 8 日)(<http://mini.eastday.com/a/180908011839042.html>)の「河南結婚彩礼錢最高的城市出炉,不是鄭州,也不是開封」という記事の中で河南省で彩礼の金額が一番高い都市は焦作であり、金額が 20 万円に達したことを紹介している。林雲飛の論文「中原農村彩礼現状調査及法律思考—以河南省 X 県為例」(『許昌学院報』2014 年第 3 期)では、河南省の X 県を例とし、アンケートと訪問の形式で彩礼の金額(平均値は 27100-45600 元であり、最高値は 10 万円である)、支

- 払う形式（現金，株，労働），婚姻に与える影響などの内容について調査を行っている。康娜の論文「婚約彩礼習慣与制定法的衝突与協調—以山東省為例」（『民俗研究』2013年第1期）では、アンケートの方法で都市，農村，鎮，県，都市と農村の結合部などの26か所に対して彩礼の有無（53.24%の人は彩礼があることが非常に普遍なことであると思うと答え，34.46%の人は彩礼があることが普遍的なことであると思うと答えている），その金額（10000元以下を選んだ人の比率は20.72%であり，10000-30000元は56.28%であり，30000-50000元は18.05%である。），出所（90.40%の人の彩礼は男方の両親から出した。29.83%の人の彩礼は男方自分の貯金である），彩礼の所属権，彩礼を受けた後の女方からの返礼，彩礼の性質，婚約をやめる時の彩礼の返却などの問題について調査を行っている。
17. 李霞の論文「民間習俗中的彩礼及流变」（『民俗研究』2008年3月期）では，彩礼の歴史とその発展を考察しており，彩礼は六礼の中の納徴であると考えている。彩礼を受ければ，婚約が成立したことを意味する。
18. 筆者の故郷の農村および一部地域では，結婚する男女は法的な結婚年齢に満たさないうちに，双方の両親の意見に基づき，まず結婚式を行い，結婚年齢に満たした後で婚姻届けを出す事例が多く存在している。
19. 王一前の論文「中国伝統婚習俗的演变」（『吉林省教育学院学报』2015年第9期）の中では，中国伝統結婚式（明清時期）の内容は祖先をまつり，天地，両親を拝することを主たる内容とする述べている。岳淑芬の論文「現代婚礼对传统婚的继承和变革—以嘉祥東関漢民婚礼為例」（山東大学碩士論文，2009年）ではインタビュー調査の方法で，嘉祥（山東省）の20世紀40年代から90年代以降の東関漢民婚礼の発展と変化について詳しく調査を行った。この論文によれば，20世紀90年代以降嘉祥地域の結婚は以下の段取りで行う。見合いが成功すれば，仲人と一緒に縁談を持ち掛ける。そのあと，婚約を約する。次は男女双方の結婚前の準備をする。その次は花嫁を迎え，拝堂をし，宴席を行う。三日後に里帰りをを行う，というものである。
20. 賓客を迎える時には，賓客の祝福を受けると同時に，賓客からの贈り物を受ける。羅信耀の『北京風俗大全—城壁と胡同の市民生活誌』（平凡社1988年）の中（p. 446）では，主人は一人の友人に頼み，結婚式の日に贈り物を記帳したり，贈り物のお金を管理してもらっている。結婚の贈り物は主に現金であり，赤い封筒の中に入れ，封筒には贈り主の名前と住所が書かれる。
21. 岳淑芬の論文「現代婚礼对传统婚的继承和变革—以嘉祥東関漢民婚礼為例」（山東大学碩士論文，2009年）と康娜の論文「婚約彩礼習慣与制定法的衝突与協調—以山東省為例」（『民俗研究』2013年第1期）によって，現代中国では彩礼と嫁入り道具の風俗は山東省，河南省などの地域では普遍的に認められている。彩礼は一般的には婚約を約する時男方から女方に与える財物と看做される。李霞の論文「民間習俗中的彩礼及流变」（『民俗研究』2008年3月期）では，彩礼は六礼の中の納徴であると考えている。ここから見れば，納徴は漢代から今まで伝わっている結婚風俗である。
22. 張宇の論文「中国西方的传统婚俗的差異之探究」（曲阜師範大学碩士論文2013年）では，婚礼の色調，婚礼の段取り，婚礼の宴席などの方面から中国，西洋の伝統婚俗の差異について検討している。文章の中で中国式と西洋式の婚礼の結合について述べている。その結合は以下の方面から現れる。服装の方面から見れば，新婦は白いウェディングドレスと中国風の赤い礼服を両方とも着る人が多くなっている。婚礼の段取りの方面から見れば，儀式を行う場所はカテドラルではなく，宴席を行うホテルであり，宴席を始める前に儀式を行う。進行役は神父を代わり，儀式上には指輪の交換のような伝統的な婚姻風俗にない内容を増加したと述べている。
23. 羅信耀『北京風俗大全—城壁と胡同の市民生活誌』（平凡社1988年）では，花嫁行列は定刻どおりに華やかに出発するというように描いている（p. 449）。ここから見れば，婚車を花で飾って新婦を迎えることは伝統的な風俗が現代に発展してきた新しい形式であると看做される。
24. 羅信耀『北京風俗大全—城壁と胡同の市民生活誌』（平凡社1988年）では，新郎呉姓青年は花嫁を迎える時，花嫁の両親に面会する謝親の様子を描写している。花嫁の両親に娘をくれた感謝の拝礼謝親を行うのは，義理の息子にとって大切な義務なのでであると述べている（p. 553）。